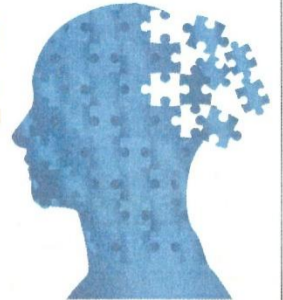


身近な病気 認知症正しく理解



6月14日は「認知症予防の日」。認知症は脳の病気や障害などによって認知機能が低下し、日常生活に支障を来す状態で、早期発見と適切な対応

で発症や進行を遅らせることができる。国内では、アルツハイマー型認知症の進行制御を目的とした抗体薬の2例目が承認され、保険適

用されるなど治療も進化している。「認知症は誰でもなり得る身近な病気」と意識して理解を深め、社会全体で対応していくことが求められる。

きょう「認知症予防の日」

あす、東京で記念式典

アルツハイマー型認知症を初めて症例報告したアルツハイマー博士の誕生日にちなみ、日本認知症予防学会が制定した。

同学会は15日、東京都内で「認知症予防の日記念式典」を開催。国立長寿医療研究センターの荒井秀典理事長が、認知症の早期発見・介入に向けた「J-DEPP研究」の成果を発表するほか、同学会の認知症予防大使を務めるフリーアナウンサー徳光和夫さんと浦上克哉理事長のトークライブなどが予定されている。

■予防可能な認知症のリスク因子

若年期 (45歳未満)	教育歴 (5%)
中年期 (45~65歳)	難聴 (7%)
中年期からの予防が重要	高LDL-C血症 (7%)
	抑うつ (3%)
	運動不足 (2%)
	糖尿病 (2%)
	喫煙 (2%)
	高血圧 (2%)
	肥満 (1%)
	過剰飲酒 (1%)
高齢期 (66歳以上)	社会的孤立 (5%)
	大気汚染 (3%)
	視力障害 (2%)
合計	45%

■認知症予防の重要性を呼びかける浦上教授

認知症予防の重要性を呼びかける浦上教授。近年、新たに加齢に伴って認知機能が低下する人が増えています。一方で、認知症予防の科学的根拠(エビデンス)は増え、健康寿命を伸ばすことも可能になってきました。社会全体で予防に取り組むことが重要です。認知症予防の重要性を認識し、取り組む必要があります。

「団塊世代が75歳以上になる2025年を迎えました。社会の変化を踏まえ、今後必要な取り組みは。」

迷惑をかけたくないという意識も強まっているように感じています。一方で、認知症予防の科学的根拠(エビデンス)は増え、健康寿命を伸ばすことも可能になってきました。社会全体で予防に取り組むことが重要です。認知症予防の重要性を認識し、取り組む必要があります。

脂質異常、視力障害に注意 新抗体薬承認、治療に選択肢



浦上克哉(うらかみ かつや)氏 1980年代から認知症の診療・研究に取り組む。鳥取大医学部保健学科生体制御学講座教授を経て、現在は同学部認知症予防学講座(寄付講座)教授。同学部付属病院(米子市)や信生病院(倉吉市)、安来第一病院(安来市)で認知症の診療も行っている。

「近年、新たに加齢に伴って認知機能が低下する人が増えています。一方で、認知症予防の科学的根拠(エビデンス)は増え、健康寿命を伸ばすことも可能になってきました。社会全体で予防に取り組むことが重要です。認知症予防の重要性を認識し、取り組む必要があります。」

昨年、英医学誌「ランセット」で、それまで40%とされていた予防可能な認知症のリスク因子が、45%に更新されました。新たに加わったリスク因子は、中年期の高LDL-C血症(脂質異常症)と高血圧(視力障害)です。脂質異常症は動脈硬化の要因となり、血管性認知症のリスクを高めるだけで、脳卒中や心臓病の原因にもなります。高血圧は、認知症のリスクを高めるだけでなく、脳卒中や心臓病の原因にもなります。高血圧は、認知症のリスクを高めるだけでなく、脳卒中や心臓病の原因にもなります。

「アルツハイマー型認知症の原因物質を除去するアミロイドβ抗体薬として、レカネマブに続き、ドナネマブが承認されました。」

どちらもほぼ同じ作用を持つ点滴薬で、レカネマブは2週間、ドナネマブは1回に1回の投与です。進行抑制率もレカネマブが27%、ドナネマブが29%と大きな差はありません。

「日本海新聞は「健康長寿・脳活プロジェクト」に取り組み、最新の情報を発信しています。」

認知症予防は継続することが大切です。新聞は毎日届きますので、活字を眺め、新しい情報を知る、脳トレ問題やパズルを解くといったことを習慣化できます。特にアルツハイマー型認知症は、最近のことを忘れるという特徴があるため、最新の出来事を意識することが大切です。会話のきっかけにもなります。

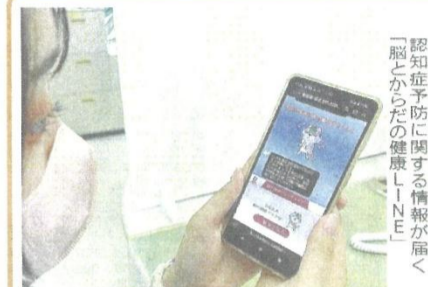
早期発見へ研究進む

新聞活用し脳トレ 毎日の継続が大事

新薬の登場で早期発見の意義が増し、予防のエビデンスも蓄積されています。高齢化が進む中、認知症予防に取り組むことは健康寿命を伸ばすだけでなく、地域で活躍する高齢者を増やし、石破茂首相が掲げる地方創生や持続可能な地域社会の実現にもつながると思います。鳥取県がいつまでも住み続けたい地域であるために、認知症予防の必要性を理解していただき、より積極的に取り組んでいくことが重要です。

鳥取大医学部認知症予防学講座教授 日本認知症予防学会理事長 浦上克哉氏インタビュー

認知症予防の意義や最新情報について、鳥取大医学部認知症予防学講座教授で日本認知症予防学会理事長の浦上克哉氏に聞いた。



脳とからだの健康LINE

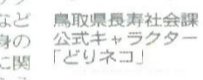
鳥取県、役立つ情報発信

鳥取県は、認知症予防や健康に関する情報を発信する公式LINE「脳とからだの健康LINE」(監修・浦上克哉鳥取大医学部認知症予防学講座教授)を開発している。「脳とからだの健康LINE」は、県民に認知症予防に関心を持ってもらう。

「脳とからだの健康LINE」は2次元コードからLINEにアクセスし、友だち登録。浦上教授のブログなど、認知症に関する最新情報をまとめた「とっとり認知症ポータルサイト」のURLは<https://www.pref.tottori.lg.jp/Dementia/>



「脳とからだの健康LINE」の2次元コード



鳥取県長寿社会課公式キャラクター「どりネコ」